

十八年
一月十三日

主新第一号

昭和十八年一月八日

主務

主任白長



主任

會計白長



主任

御 轉

總務白長



審査

愛宕塔と同形、塔塔式構造法は決
定ノ末由を被仰奉即塔式ノ新構造法
所ニテ着手ハ、是迄可測也一被ノ製造
場所ハ、進テ相同ノ事、各層テ上申成シ置
キ、右ノ島平野造出所、我ハ先被核
査

第四八號

九十八

頁

頁

平

部

東

吉

又保

0224

濱裝銀所ノ為機械等石川島へ引移
 之海ノ船ニ付テハ急須製鐵所ニ移
 成多ト信認知シ候ニ付左記様一様
 迄拙所様ニ於テ製造セシヨラレ候
 出カテ製鐵所ノ人等ノ為案内
 テ稟申上ル候ニ奉一應仰高裁候
 也

0225

本件ヲ案スルニ石川嶋平野造船所ハ横濱
 製鉄所ノ儲積積等ヲ移シタルヲ以テ蒸氣
 船製造方ニ差支ナシト信認シ之ニ砲船ノ製
 造ヲ委託シ度トノ意見見ラ然ルニ平野造船所
 ハ國ヲ横濱製鉄所ヲ移シ小急氣船ヲ
 製造アリ故ニ製造所ヲ移セルヲ以テ上達ニ
 砲船ヲ製造スルニ差支ナシト断定スルハ少シク
 不安心ニ彼存候且後造船所ニテハ嘗テ
 馬力二百以上ノモノヲ製造セルヲ聞カズ依テ
 尚能ク主船局長ニ取寄問ノ上テ存候決
 定可然被存候也

九十九

軍甲第四十七号

海軍省

明治二十一年一月九日

軍事部長

述テ私立造船所ニ於テ軍艦ヲ製造スルハ固莫
ク至急スルニ非也

0227